

【1月20日（月）朝礼講話】

みなさん、おはようございます。先週、3年1組でインフルエンザのため学級閉鎖を行いました。今日は、インフルエンザの拡大防止のために、放送による朝礼を行います。しっかり聞いてくださいね。

先週の木曜日の6時間目は、年明けて初めての委員会でした。いろいろな委員会が、それぞれの活動を一生懸命に行っていました。児童会室を覗くと、野村麻人先生や長崎先生と共に、5名の児童会役員が真剣な顔で話し合いをしていました。

後から詳しく聴くと、今の草平小学校の生活の問題点について話し合っていたそうです。例えば、「無言清掃中に、まだまだおしゃべりをしている子がいる」「廊下を走っている子がいて、声をかけてもなかなか言うことを聞いてくれない」などなど。対応策として、「何度注意をしても聞いてくれない子は、担任の先生から注意をしてもらう」という案も出されたそうです。

この話を聞いた時、先生は自分が高校生の時の経験を思い出しました。それは、先生が高校2年生の時のことです。同級生の女の子が、テスト中にカンニングをしているという噂を耳にしました。先生からも指導をされているのにやめないということでした。

ある日、その子と同じ教室でテストを受けることになりました。先生は、テストを受けながらも、時々その子の様子を見ていました。しばらくすると、何と机の中からそっとカンニングペーパーを出して、答えを書き写しているではありませんか！「やっぱりあの噂は本当だったんだ」と思いました。

先生は、昔から「悪いことは悪い」とはっきりとものを言う性格だったので、テストが終わり先生が教室からいなくなったのを見計らって、わざとその子に聞こえるようにこう言いました。「カンニングっていう悪いことをしていい点を取って、何の意味があるのかなあ。私たちは、一生懸命に勉強してきているのにね」と。

その日の夜、先生の自宅に彼女から電話がかかってきました。電話口で、彼女は「ごめんなさい」と小さな声で言いました。今となっては、きっととても勇気が要ったと思いますが、その時先生はまだ高校生だったので、その彼女に「謝らなくてもいいよ。だって私たちはあなたのことを、卒業してからずっと『カンニングしていた子』だと思うだけだから！」と言って、そのまま電話を切りました。

その日から、彼女はあれほど先生に指導されてもやめなかった一切カンニングをしなくなりました。

先生はこの経験から2つのことを学びました。

1つ目は、彼女がやっていたことは悪いことだと思いますが、勇気を出して電話をしてきた彼女に、もう少し違う言葉をかけてあげられれば良かったということです。どんな理由があっても、優しさを忘れずに人に接することが大切だと反省しています。

2つ目は、大人の言うことも大切ですが、同級生や同年代からの言葉は大きな影響力があるということです。

児童会の人たちが、清掃中に話をしている子や、廊下を走っている子に声をかけています。さらに、同じクラスや学年の中で、「掃除中はしゃべらないよ」「廊下は危ないから走らないよ」って声かけをしたら、もっともっと大きな力となって影響すると思います。

草平小学校をよりよくしていくのは、児童会の人たちだけでなく、みんなで協力し合っていていくことだと思います。先生から注意されるよりも前に、みんなで声をかけ合って、よりよい草平小学校を作っていってほしいと思います。

以上で校長先生のお話は終わります。

インフルエンザの予防のために、マスクの着用、体調の悪い人は無理をしない、手洗い・うがいをしっかりし、健康で過ごせるように頑張りましょう！